



きれいな学校 輝く笑顔 ~J(授業) A(挨拶) S(清掃) MI(身だしなみ) N(仲間)~

# 大久保中だより

〒338-0815 さいたま市桜区五関282 Tel 048-852-3554 Fax 048-840-1430  
Mail Address : okubo-j@saitama-city.ed.jp

「 やってはならぬ やらねばならぬ ならぬことはならぬものです 」

校長 新井 敬二郎

新人体育大会、大久保中学校大躍進！君たちは最高です。一人ひとりが本当に良く頑張りました。ソフトボール部、女子バスケットボール部、剣道部(個人)、女子バドミントン部(個人)、県大会出場おめでとうございます。また、強いチームはさすがに応援マナーも良く、見ていて爽やかで気持ちの良い印象を受けました。10月27日から県大会が始まりますが、頂点目指して頑張ってください。

突然ですがNHK大河ドラマ「平清盛」見ていますか。先生は毎週楽しみに、鑑賞しています。今回は少し元社会科の先生らしい話をします。来年の大河ドラマは「八重の桜」という題で、同志社大学を設立した新島襄の妻、八重さんの生涯を描いたものだそうです。八重さんは会津藩に生まれ、「ならぬことはならぬもの」という理屈ではない強い教えのもと、会津の女として育ちました。戊辰戦争時には断髪・男装し、鶴ヶ城籠城戦でスペンサー銃を手に奮闘し「幕末のジャンヌ・ダルク」と呼ばれたそうです。

さて、会津藩といえば「什の掟(じゅうのおきて)」が有名です。江戸時代の会津藩では藩士の子は10歳になると藩校「日新館」に入学します。それ以前に6~9歳の子どもは、区域ごとにグループをつくり、礼儀など武士の子としての心構えを学んで藩校入学に備えたのです。このグループは10人1組を意味する「什」と呼ばれ、グループ内の規則が「掟」です。一、うそをついてはなりません 一、弱いものをいじめてはなりません

など現在でも十分通用する規則があります。また、掟を破った者にはちゃんとそれなりの制裁があるのです。軽いのは「しっぺ」から重いのは「絶交」まであり、幼い頃からしっかりと「罪と罰」を身に付けさせられるのです。特に「ならぬことはならぬ」という文言は、幕末から140年経た今でも、会津地方の人たちがよく口にし、その精神は親から子へと受け継がれています。

近年、会津の街へ行くと「什の掟」ならぬ「あいづっこ宣言」の立て札をよく見かけます。会津若松市教育委員会が平成14年に現代版什の掟として作り、道徳教育に活用しているのだそうです。

さて、「あいづっこ宣言」を「大久保中宣言」に、「会津」を「大久保」に読み替えてみたらどうでしょう。とてもすてきな宣言文になりませんか。今の君たちなら、どんなことでもできると思います。心の中で高らかに宣言し、夢に向かって進んでいきましょう。

